

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『山・海・里・食・農から生まれるサステナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま』

活動団体の活動地域：福井県丹南地域

活動団体名：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

中間支援主体名：合同会社ローカルSDクリエーション

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

自然環境をはじめとした地域資源を活用し、地域の需要に適合した様々な観光コンテンツが開発され、地域外の人々との交流を通じ経済循環が生まれ、豊かな自然環境と農林水産業が守られる持続可能かつ発展性のある観光地域。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 農山村における体験アクティビティの企画・運営
- 地域の観光ブランド戦略の策定
- 地域のゲートウェイ（ハブ）機能を持つ中核拠点の設立

多様な地域資源



里地里山・里海



環境に配慮した米



コウノトリ



交流体験を行う団体



農家民泊

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み



2023年度末
北陸新幹線敦賀延伸

福井県を訪れる観光客のうち
自然目的は第3位！（R2年度）



観光需要を活用し、都市住民との
交流による里地里山・里海の保全
体験を企画運営するプラット
フォーム拡充

2024年度末の状態目標

- 体験コンテンツの企画運営
- 市中心部や新幹線駅からの二次交通の検討
- 地域ブランディングプランの策定

2025年度末の状態目標

- 各コンテンツの採算性の評価
- ブランド商品の開発
- 地域ブランドプロモーション

2026年度末の状態目標

- ゲートウェイやハブとなる中核施設拡充整備
- 関係及び連携団体の拡大
- 事業の検討と見直し

■見立て

【主な強み】

- 市や地元企業との連携協定の締結により、関係主体が多い。
- 教育旅行の受け入れや農家民泊を関係主体と連携し事業を実施している。

【主な課題】

- 観光誘客や地域資源のブランディングに特化したビジョンが存在しない。
- 地域資源の価値や魅力について十分に認識されていない。

■打ち手

テーマ：地域特性に合致した体験プログラムのコンセプト構築

- 観光需要の現状に沿った、ブランド戦略の策定支援。

定例会やSHミーティング

- 体験プログラムの企画と実施支援。

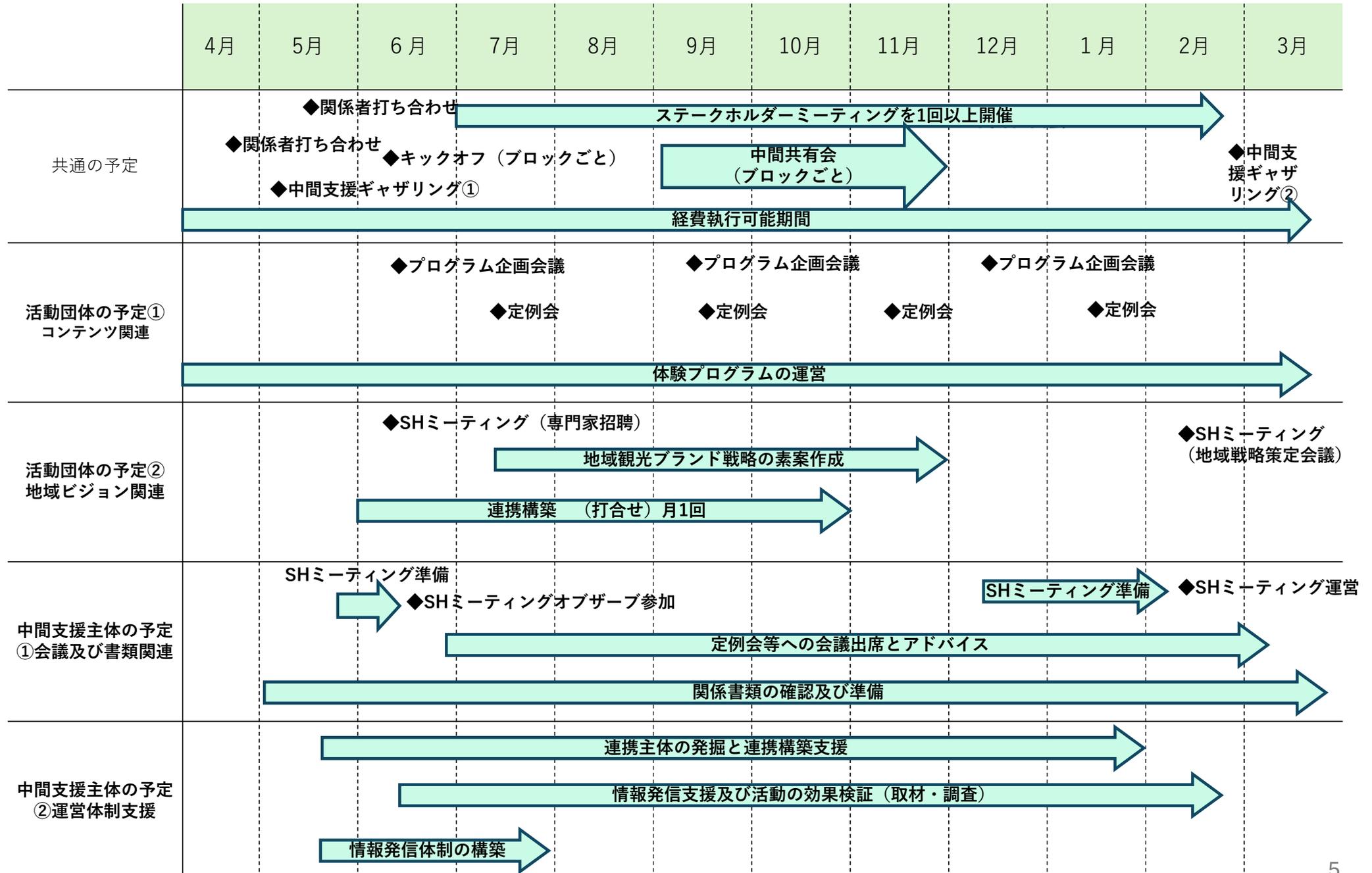
情報発信とコンテンツのブラッシュアップ

■中間支援機能の強化・振り返り

- 活動団体の様々な課題に対して、適格なアドバイスを行えるスキル獲得。
- 新たなステークホルダーの巻き込みなどプラットフォームの拡充に必要なつながりの拡充。
- 地域の魅力に関する情報発信能力向上。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

地域のビジョンを描く：地域の関係者の話を仲間と共有する
地域の構造を可視化・言語化する

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

地域住民のワークショップを行い地域の魅力、強み、弱みなどを認識し地域のブランドビジョンの策定を行い、地域住民が地域に誇りを持てるように取り組んでいる。

● 具体的な支援内容（打ち手）

ワークショップにオブザーバーとして参加し、意見をふまえ、地域の内外双方の価値観を認識する必要があるとアドバイスした。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

多様な世代や地域外の人といったターゲットを設定し地域の魅力やブランド価値をPRする必要を認識した。

● 中間支援主体としての気づき・成長

オブザーバーとして話し合いの場から離れた客観的な立場で関わることも必要。

活動団体の取組

● 活動名・時期

しらやまブランディングワークショップ
(株)ドマノマドによるワークショップ)

6月16日、7月19日、8月29日、9月20日

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

地域住民に地域の魅力や強み、弱みを認識し地域に誇りを持ってもらう。

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

地域のキャッチコピーとなるタグライン3案が出され、売り込みたいターゲットごとにブランディング戦略やコンテンツ開発を行っていくことを認識した。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

事業を生み出す：事業計画の内容を聞き、ともに考える
事業の試行を支援する

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

市や地元企業との連携協定の締結を行い、関係主体が多く、教育旅行の受け入れや農家民泊、体験活動を連携して実施している。

● 具体的な支援内容（打ち手）

地域特性に合致した体験プログラムのコンセプトを構築する為、プログラムの企画及び実施支援や情報発信等の支援を実施。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

集客に対し情報発信と予約管理、担当者の拡充などの事業に必要な取組みの認識ができた。PRのために必要な連携先について具体的に話を進める準備ができた。

● 中間支援主体としての気づき・成長

事業企画やアドバイスを的確に行うための情報量が増えたほか、顧客のニーズを拾うことができた。

活動団体の取組

● 活動名・時期

- ・竹のランプシェード作り 6月30日
- ・蔓まくりすいか収穫体験 8月31日

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

- ・竹のランプシェード作り
里山の保全と里海の保全の連携
- ・蔓まくりすいか収穫体験 8月31日
地域資源を活用したフードロス削減

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

新たな体験コンテンツを運営することにより、スイカ農家の方とのつながりができたほか、実施のノウハウと課題の抽出ができ、今後の提供サービスのクオリティを高めるきっかけとなった。

活動・支援のプロセスの振り返り

- (特に前2スライドの支援を実施するにあたり、) 今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？ (中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入)

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目(番号)	支援をしたタイミング等
運営制度の設計	プロセス支援	2-(2)	スイカ蔓まくり体験の支援
チェンジ・エージェント機能	変革促進機能	5-(2)	竹のランプシェード、スイカ蔓まくり体験の支援
チェンジ・エージェント機能	プロセス支援	5-(1)	事業全体

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

- プログラムの企画・における外部の価値観を取り入れてもらえるようになった。
- ターゲティングを明確する重要性を認識してもらえた。

(顧客のニーズや他地域の取り組みなど)

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

- 専門的な分野においては必要に応じ別の主体に支援を担ってもらえる機能があった。
(予約管理や地域ブランディング)
- 事業企画やアドバイスを的確に行うための情報量が増えた。

● R6課題だと感じたこと

- 活動団体の具体的にやりたいこととつながりたい主体の明確化をどう引き出すか
- 人材育成のための研修会や視察などの機会に関するモチベーションの向上

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといいと考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようになりたいか。

【新たなつながりの拡充】

- 新たな関係主体の巻き込みとニーズの明確化（特に地域外から当該地域を訪れる人など）

【地域の魅力に関する情報発信能力向上】

- 新たな関係主体と連携した情報発信の支援能力向上
- 多様な媒体に発信を行うため地域の情報量を増やし多方面へのPR

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

【見立て】

- 地域資源の価値や魅力を地域住民が認識し始めている。一方で地域外からの魅力やニーズにはずれがあると感じる。
- 担当者の分担や役割の明確化そして体験コンテンツに対応できる人材育成を支援する。

【打ち手】

- 地域外の人たちからのニーズや地域資源の魅力を聞ける場の設置と情報発信の支援。
- 先進的な事例をSHミーティングや研修会などを活用し学ぶ機会を提供する。
- 体験企画のアイデア提案や実施体制の支援（予約や連絡調整、情報発信等）

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

活動団体が他地域の事例に触れたりや活動メンバーと話すことのできる機会を増やしていただきたい。